

みやこの歴史発見伝 103

校庭から現れた弥生の村

— 犀川小学校校庭遺跡の発掘調査 —

「終戦直後の発掘調査」

「吉野ヶ里遺跡」は弥生時代を代表する九州の遺跡として有名ですが、この遺跡が調査される前は、静岡県内の「登呂遺跡」が、その代表とされ、長く歴史の教科書などに掲載されました。

この遺跡は、終戦直後の食糧・物資の乏しい中で調査され、日本の考古学史に残る遺跡として現在、国の特別史跡に指定されています。この登呂遺跡とはほぼ同じ頃に本格的な調査が行われ、その後、この地域における考古学・歴史研究に大きな影響



▲犀川小学校校庭遺跡(左が校舎、下が体育館)



▲野間遺跡の調査風景

犀川小学校校庭遺跡

犀川小学校の校庭では、古くから雨が降った直後に、きれいな円形に乾くところがいくつもみられ、これを土俵にして相撲をとったという話も伝えられています。これは「ソイルマーク」とよばれる、地下にある土砂の乾燥状態の違いが色の濃淡として地表に現れる現象で、これを観察することによって地下にある遺跡を発見する事ができるた

め、考古学の分野では遺跡探索手段の一つとして用いられています。この現象と併せて、校庭法面から土器などが出土することから、昭和二十四年(一九四九)二月、小倉高校の教諭であった田頭喬氏が試掘調査を行った結果、弥生時代の住居跡が発見されました。その二ヶ月後、九州考古学会及び福岡県歴史調査会が合同で本格的な調査を行いました。この調査では、二十基以上の穀物貯蔵庫の跡が発見され、調査には多くの見学者が訪れたといわれています。

六十八年ぶりの調査

その後、運動場の造成や盛土により「ソイルマーク」がみられなくなり、遺跡の存在も学校の遠い過去の記憶に留まることになりました。

最初の調査から六十八年後の昨年七月から学校再編事業に伴い、校舎建設予定地の犀川小学校校庭で、再びこの遺跡の発掘が行われることになりました。

調査に先立ちグラウンドの土を剥すと、「土俵」のような円形の遺構が次々と出現しました。この「土俵」状の遺構こそ、六十八年前の調査で発見された穀物貯蔵庫の跡で、主にお米を蓄えていたものと思われます。貯蔵庫の中から各種の土器や、佐賀県伊万里市周辺でのみ採取さ



▲発掘体験の様子

れる黒曜石等の石で作られた鉄、石包丁や砥石のほか、石製の剣なども出土しました。土器の形などから、これらの貯蔵庫は約二〇〇年前につくられたものと考えられます。一部の土器には、貝殻を使って木の葉状の模様を施したものや、赤い顔料が丁寧に塗られたものも含まれていました。特に木の葉状の模様については北部九州から山口県沿岸部に特徴的な分布がみられ、先の調査結果から犀川小学校校庭遺跡は、この模様の土器が出土する代表的な遺跡に位置付けられています。また、明治時代から昭和の初め頃の牛乳瓶やインク瓶等のほか、小型の硯なども出土しており、これらは児童が学習で使用したものと推測されます。

「歴史を掘り起こす」学習

今回の発掘では、校庭の地下から発見された遺跡を、自らの手で掘り起こすことによって、歴史を身近に感じながら、学校や地域により一層興味をもってもらうことを目的として「発掘体験」学習を実施しました。この学習には延べ七十七名の児童が参加し、移植ごてを手に「歴史を掘り起こす」体験をしました。参加した児童から「ソフトボールの練習をしていたグラウンドから、教科書でみた当時の土器や石器が出てきたことに驚いた。」「二度とできないような体験ができてうれしかった。」「石のヤジリで何を切っていたの?」など様々な感想や質問が出され、校庭地下に刻まれた現在までの「学校の生い立ち」の痕跡を掘り出す事によって自分の学校に対する誇りや郷土愛を育む事ができたのではないのでしょうか。

【井上信隆】



▲出土遺物(右側が学校開校遺物)

犀川小学校校庭遺跡の

発掘調査結果について

みやこ町歴史民俗博物館

井上 信隆

太平洋戦争が終結し、国全体が食糧難や米軍の進駐により混乱に陥り、日々生活を送ることが精一杯という時代に、大学生を中心に静岡県内の「登呂遺跡」で発掘調査が行われました。この発掘は、単に遺跡の調査だけではなく、戦争時に掲げられた「歴史観」から、「考古学」という新たな方法論を用いて、本来の正しい日本の歴史を科学的に実証するという、大きな意味合いをもつものでもありました。その目的を達成するため、発掘に必要な機材・食料など政府を挙げて調達・確保し、最終的には国家事業として取り組むまでに発展しました。連日、新たな遺構の発見や遺物に出土が伝えられ、「世紀の大発見」により、国家の起源が神話から史実へと塗り替えられたことは、戦後日本の再建の第一歩となるものであり、またその成果は、敗戦で荒廃した日本国民に多くの希望を与え、人々を勇気付けるきっかけとなりました。

この発掘調査と同じ頃、みやこ町犀川で登呂遺跡と同じように弥生時代の遺跡の発掘調査が行われ、数少ない明るいニュースとして伝えられました。

犀川小学校校庭遺跡

犀川小学校の校庭では、古くから雨が降った直後に、きれいな円形に乾くところがいくつもみられ、これを土俵にして相撲をとったという話も伝えられています。これは「ソイルマーク」とよばれる、地下にある土砂の乾燥状態の違いが色の濃淡として地表に現れる現象で、これを観察することによって地下の遺構範囲を予測できることから、遺跡検出方法の一つの手段として用いられます。この現象と併せ象と併せて、校庭法面から土器などが出土することから、終戦直後の昭和二十四年（一九四九）二月、小倉高校の教諭であった田頭喬氏が試掘調査を行った結果、弥生時代の住居跡が発見されました。その二ヶ月後、九州考古学会及び福岡県歴史調査会が合同で本格的な調査を行いました。この調査では、穀物貯蔵庫の跡が二十基以上発見され、調査には多くの見学者が訪れたといわれています。

六八年ぶりの調査

その後、運動場の造成や盛土により「ソイルマーク」がみられなくなり、遺跡の存在も学校の遠い過去の記憶に留まることになりました。最初の調査から六八年後の昨年七月から学校再編事業に伴い、校舎建設予定地の犀川小学校校庭で、再びこの遺跡の発掘が行われることになりました。グラウンドの整地土を剥すと、「土俵」のような円形の遺構が次々と出現しました。この「土俵」状の遺構こそ、六八年前の調査で発見された穀物貯蔵庫の跡で、主にお米を蓄えていたものと思われます。貯蔵庫の中から各種の土器や、佐賀県伊万

里市周辺でのみ採取される黒曜石等の石で作られたヤジリ、石包丁や砥石のほか、石製の剣なども出土しました。土器の形などから、貯蔵庫は約二〇〇〇年前につくられたことが確認できました。一部の土器には、貝殻を使って木の葉状の模様を施したものや、赤い顔料が丁寧に塗られたものも含まれていました。特に木の葉状の模様については北部九州から山口沿岸部に特徴的な分布がみられ、先の調査結果により犀川小学校校庭遺跡は、この模様の土器が出土する代表的な遺跡に位置付けられています。また、明治時代から昭和の初め頃の牛乳瓶やインク瓶のほか小型の硯なども出土しており、児童が学習で使用了らものと推測されます。

「歴史を掘り起こす」学習

今回の発掘は、校庭の地下から発見されたこともあり、学校の協力を得て児童の「発掘体験事業」を実施しました。これは遺跡を自ら手で掘り起こすことによって、歴史を身近に感じながら、学校や地域に興味をもってもらうことを目的としたもので、この学習には、犀川小学校の5・6年生及び近隣の三小学校の児童の延べ七〇名が参加し、移植ごてを手に「歴史を掘り起こす」体験をしました。参加した児童から「ソフトボールの練習をしていたグラウンドから、教科書と同じような当時の土器や石器が出てきたことに驚いた。」「二度とできないような体験ができてうれしかった。」「石のヤジリで何を狩っていたの?」など様々な感想や質問が出され、校庭地下に刻まれた現在までの「学校の生い立ち」の痕跡を掘ることによって、自らの学校に

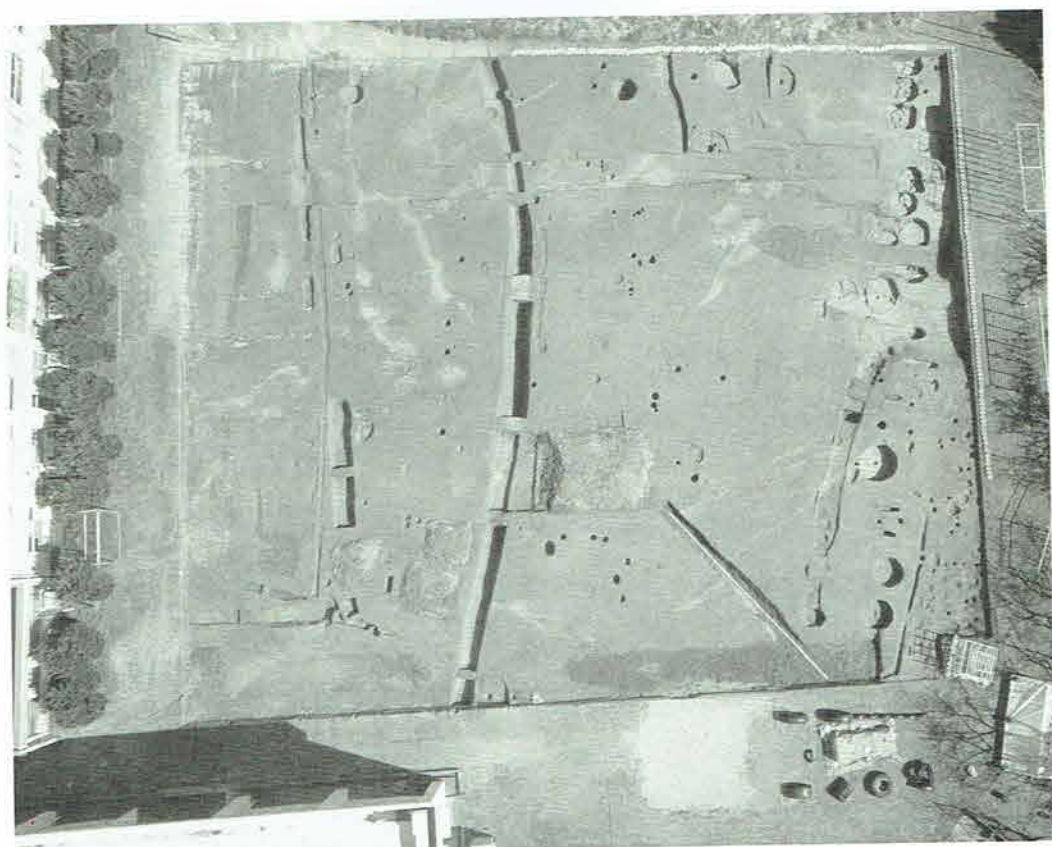
対する誇りや、郷土愛を育む、かけがえのない経験となりました。

犀川小学校校庭遺跡の位置付け

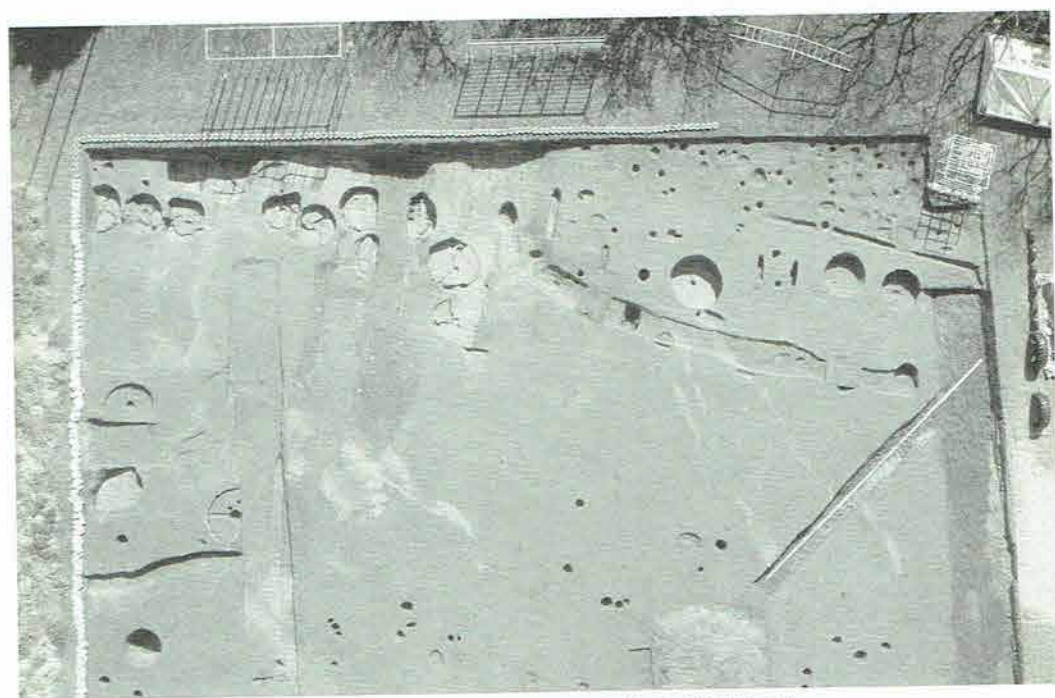
このように、犀川小学校の校庭で発見された遺跡は、戦後間もない時期に、人々の熱意によって調査が行われ、京築地域の本格的な発掘調査の先駆となる画期的なものでした。

物資も情報も乏しい中で非常に困難な発掘調査であったことが容易に想像できますが、この発掘調査の結果によって、「犀川小学校」の校名が、九州における弥生時代の重要な一遺跡として広く知られることとなります。六八年の歳月を隔てて、弥生時代の遺跡・遺構の情報を豊富に把握した上で、確立された技術や知識、各種の機材を用いて発掘に臨むことは隔世の感があり、前回を上回る情報の記録に努めることがこの遺跡に対する最低限の姿勢であると感じました。今回、発掘調査を体験した児童が、この体験を契機に、この地域やその歴史に興味・関心を抱き、その想いを発展・連鎖することで、「郷土を守る」大きな力に拡大することができれば、今回の発掘における最大の成果に位置付けられることであると感じました。また調査結果の説明会では卒業生を含む多くの参加者が訪れ、PTA参加による発掘体験の実施など地域における関心の高さがうかがえました。

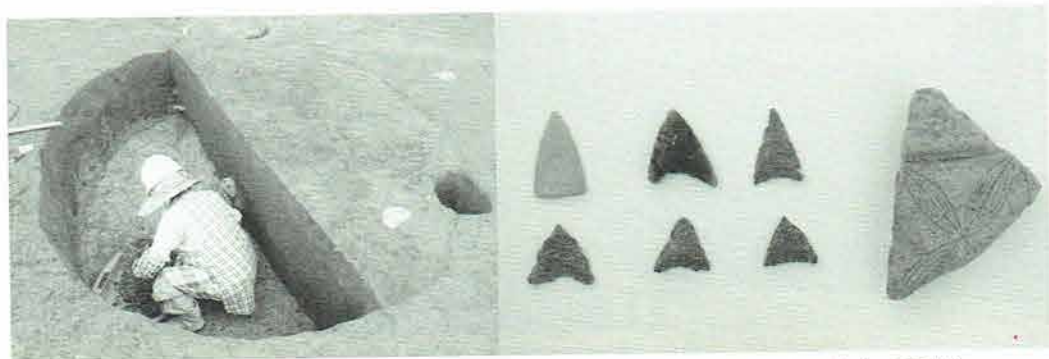
今回の調査は、「考古学は地方（地域）に勇気を与える」という日本の考古学者が残した言葉の本当の意味を理解することができた発掘調査となりました。



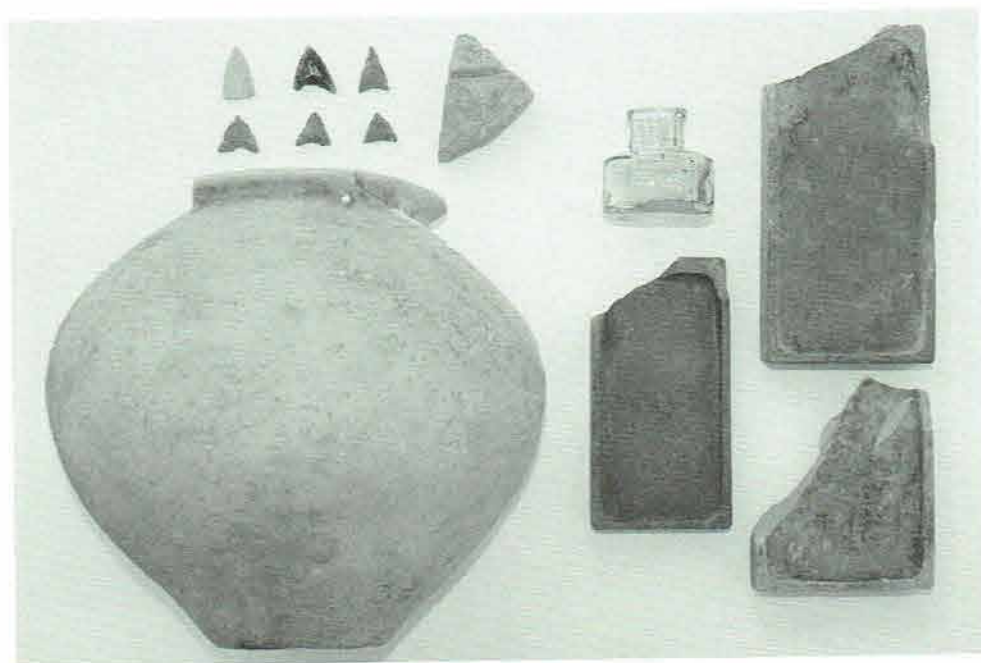
犀川小学校校庭遺跡（西側から）



犀川小学校校庭遺跡 貯蔵穴集中箇所（北側から）



出土遺物（石鏃、木ノ葉文土器片）



出土遺物（右側は硯、インク瓶など学校関連遺物）

発掘体験実施状況



発掘体験実施状況



説明会実施状況

